



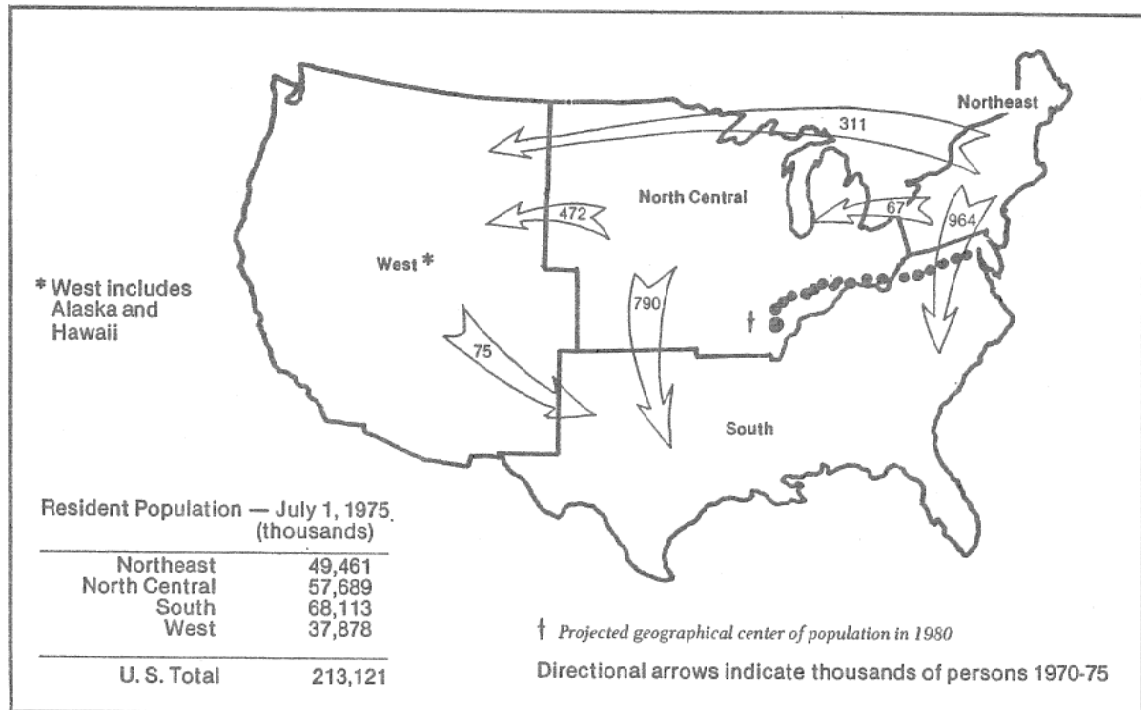
随 筆

米国サンベルトを訪ねて

鈴 木 胖*

米国の工業地帯は、長い間、ニューイングランド地方や五大湖沿岸が中心であったが、最近になって南部や太平洋岸の比重が高まりつつある。米国センサス局では統計調査のため国内を北東、中央北、西、南の4つの基本地域に分割している。南部諸州に、ニュー・メキシコ、アリゾナ、南カリフォルニアを加えた地域は、俗にサンベルトと呼ばれている。これに対し、中央北部の東から北東部にわたる地域はスノーベルト、マニュファクチュアリング・ベルトあるいはインダストリアル・ノースなどと呼ばれている。スノーベルトの代表業種が鉄鋼業、機械工業であるのに対し、サンベルトのそれは石油化学、航空機、エレクトロニクスなど成長の著

しい産業である。またその名の通り、スノーベルトは冬は厳しく、サンベルトは、年中、太陽に恵まれている。ニュー・メキシコやアリゾナは酷暑の地であるが、現在ではエア・コンディショナーの普及により快適な生活が楽しめるようになった。このような産業構造の優位性や気候条件の違い、それにこれまで開発が遅れていたというようなことも重なって、スノーベルトの地位の低下、サンベルトの地位の上昇という跛行現象が米国内で進みつつある。そのもっとも端的な表われが人口移動である。図は1970年から75年までの5年間のネットの移住状況を示したもので、北東部および中央北部から南部および西部へのかんがりの人口流出が見られる。そ



(出所) B.L. Weinstein & R.E. Firestone, "Regional Growth and Decline in the United States"
 原典: Citibank, *Monthly Economic Letter*, New York, October 1976, P. 13.

図1 米国における人口移動 (1970—75)

*鈴木 胖 (Yutaka SUZUKI), 大阪大学, 工学部, 電気工学科, 教授, 工学博士,
 システム工学, 電気工学

して量はまだ小さいが西部から南部への人口流出も見られる。

ある地域が人口を吸収する要因はいろいろ考えられるが、最も基本的な要因ということになると、雇用機会の増加である。サンベルトにおいては、できれば北の寒い地域よりも、南の太陽あふれる地域に住みたいという人々のもつ基本的欲求を背景に

企業立地→雇用機会の創出→人口吸引

↑ 労働力の供給 ↓

というポジティブ・フィードバックが明らかに働いており、これが地域の発展の原動力になっている。第2次大戦中のサンベルトへの軍事施設の立地、航空機など軍事に関係した工業の立地、そして60年代の米国の威信をかけた宇宙開発事業の基地がサンベルトにつくられたことが、この地域に先端技術産業を根付かせるのに大きく貢献したと考えられる。

筆者は昨年5月から6月にかけて約2週間大阪工業会の米国における先端技術産業立地の調査団のコーディネーターとしてサンベルトを訪れた。そこで見聞したのは、北の下降、南の上昇という大きな歴史的流れの中にあって、サンベルトの多くの州や町が単に流れに身をゆだねるだけでなく、企業の誘致にきわめて積極的に取り組んでいることである。それも直接に企業に働きかけるといっただけでなく、優秀な企業が自ら立地を希望したくなるような条件づくり、具体的にはハイウェイ、空港など交通基盤の整備、土地だけでなく建物も含めた産業団地の建設、優良でバラエティに富む住宅の建設、大学など高等教育機関、医療機関の充実、ホール、図書館、ホテルなど多彩な文化施設の整備など、総合的な地域整備に多大の努力を傾注してきている。

関西でも最近になって技術開発における産官学の連けいの強化や先端技術の育成の問題がいろいろなところで論じられている。躍進の目ざましいサンベルトにおける産官学の連けいのやり方として興味深かった1、2の例を紹介しよう。

アリゾナ州立大学のエンジニアリング・エクセレンス・センター

アリゾナ州のメトロフェニックス（都市圏の呼び名、人口約150万）は今やカリフォルニアのシリコン・バレーにつぐ半導体関連産業の集積がみられ、この地域はしばしばシリコン・デザートと呼ばれている。この都府圏内のテンペという町にアリゾナ州立大学がある。この大学は毎年38,000人以上の卒業生を送り出している米国でも最大クラスの大学である。正規の卒業生のほか、夏期セミナーにより22,000人、通信講座、短期コース、セミナー・プログラムの生涯教育により15,000人以上の生徒を送り出している。大学は学芸、建築、経営管理、教育、工学および応用科学、美術、法律、看護、公共プログラム、大学院カレッジ、社会事業スクールの11のカレッジから構成されている。80の専門分野の学士、68分野の修士および教育専門家、経営管理、音楽芸術、公共管理、法律、PhDの博士コースが設けられている。

1979年末に、アリゾナ州立大学における工学教育の領域を拡大し、質の向上をはかることを目的として、アリゾナ州立大学エンジニアリング諮問会議が組織された。この会議は、フェニックス都市圏の著名な産業およびビジネスのリーダー達に大学の工学および応用科学カレッジからの代表2名を加えて47名で構成されている。1980年初頭から作業を開始し、会議のメンバーによる総合的な調査研究が行われた。これと並行して産業側の専門家および大学のファカルティ・メンバーからはほぼ同数ずつ選ばれた54名により、6つのタスクフォースが編成され、会議をフォローする詳細な作業が行われた。その結果つくられたのが、エンジニアリング・エクセレンス・プランである。

会議のプランを実行に移すためには、5年間に3,200万ドルの投資が必要である。プランでは1,950万ドルは州からの支出に頼り、これは主として建物の建設に当てる。850万ドルは民間企業から、残りの300万ドルは連邦政府の研究プログラムから調達するとしている。このプログラムはアリゾナ州ですでに活動しているエンジ

ニアリングベースの産業の経済的基盤の改善に大いに役立つと考えられる。具体的には、州の経済成長に寄与する、産業との協同研究の能力が高まる。新しいエンジニアの教育基盤が改善される、州の人々や産業に生涯教育サービスが行える、州外のエンジニアを吸引するのに役立つ、などである。

エンジニアリング・エクセレンス・センターの役割りを明確にするため、つぎの6つの専門分野が選ばれた。すなわち、固体エレクトロニクス、コンピュータおよびコンピュータ・サイエンス、コンピュータ援用プロセス、エネルギー・システム、熱科学（熱力学、流体力学、熱および物質伝達、いろいろなその応用分野にわたる境界領域を表わす数しい言葉である）および交通である。

諮問会議の目標は、はじめの3つの分野でアリゾナ州立大学のレベルを全米大学の中で10指に入るよう高めることである。残りの分野でも卓越することを目指している。

新しいエンジニアリング・リサーチ・センターの建設には、1,300万ドルが投じられ、1983年夏には完成の予定である。またファカルティの定員として34名が確保されている。

セントラル・フロリダ・リサーチ・パーク

フロリダ州のほぼ中央に米国でも有数の高成長都市圏（人口約70万）であるグレータ・オーランドがある。このオーランドのダウンタウンから東へ20キロメートルのところに、セントラル・フロリダ大学のキャンパスがある。このキャンパスに隣接して1,440エーカー（570ヘクタール）のセントラル・フロリダ・リサーチ・パークが計画されている。このパークはセントラル・フロリダ大学とオレンジ・カウンティ研究開発公社との合同ベンチャーである。その目的は、ハイテクノロジー/研究開発型の企業を誘致し、中央フロリダの経済的基盤を拡大すること、および高等教育の水準を強化することにある。

セントラル・フロリダ大学は、フロリダ州立大学システムの9つの大学の1つとして1968年に開校した。キャンパスは1,227エーカーの面

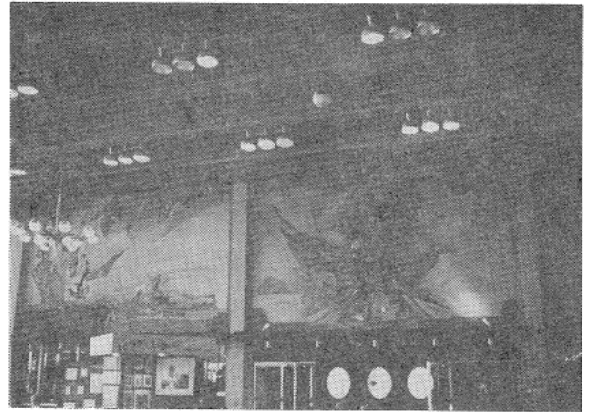


写真1 フェニックス・スカイ・ハーバー国際空港のターミナル2のパネル、左から大地、不死鳥、空

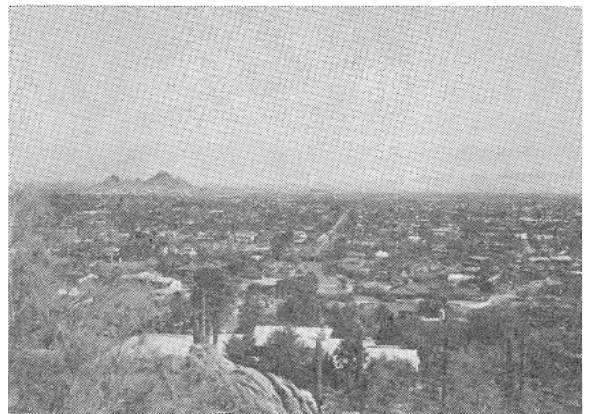


写真2 キャメル・バック・マウンテン中腹よりフェニックス市街を望む



写真3 アリゾナ州立大学

積をもち、450人以上のファカルティ・メンバーを擁し、毎年14,000人の卒業生を送り出している。美術および科学、経営管理、教育、工学、健康管理、拡大研究の6つのカレッジ、33の学科、75の学部プログラム、44の修士プログ



写真4 オーランド国際空港のエアースイド・ターミナル



写真6 ウォルト・ディズニー・ワールドのマジック・キングダム、メイン・ストリート USA

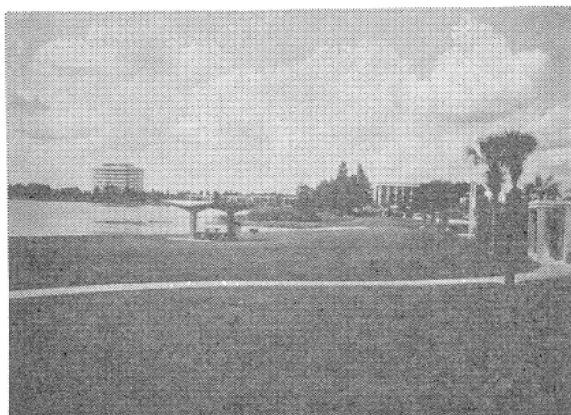


写真5 オーランド中央工業団地

ラム・コンピュータ・サイエンス，工学，教育の3つの博士プログラムがある。

リサーチ・パークには、ショッピングセンター、銀行、郵便局、モートル・コンファレンス・センター、レストランなどがある。パークに立地する企業は全てのフロリダ州立大学の人的、物的資源にアクセスできるという利点もっている。セントラル・フロリダ大学にはコンピュータ施設、オーデトリウム、教室、会議場、レクリエーション施設、研究所などがある。大学の図書館はコンピュータを介して900以上の図書館と結ばれている。リサーチ・パークのテナントにとって最も重要なのは、大学との関係を通じて従業員の生涯教育を容易に行えることであると当局はPRしている。